

# 令和5年度 保育人材確保・定着に関する 実態調査

## 調査結果の概要

令和5年10月

鳥取県子ども家庭部子育て王国課

## 【調査の概要】

- (1) 調査方法 調査票の郵送又は配布による調査  
 (2) 調査期間 令和5年7月21日～9月15日  
 (3) 回答時点 令和5年8月1日

区分	対象者数	抽出方法	回収数	回収率
現役保育士	9,030名	鳥取県保育士登録者名簿(令和5年4月登録分)のうち概ね65歳以下の方(昭和32年4月1日以降に生まれた方)	1,280名	29.3% (宛先不明 2,118名を除く)
潜在保育士			745名	
保育施設	290施設	公立私立を含む県内すべての保育所、認定こども園、幼稚園、地域型保育事業所、届出保育施設(令和5年4月1日現在)	170施設	58.6%
学生	222名	県内保育士養成施設における在学生 鳥取大学:30名(1年生を除く定員数) 鳥取短期大学:192名	177名	79.7%

※鳥取大学の学生は令和5年11月頃に配布・回収・追加集計を行う予定。

## 【調査結果の概要】

(1) 保育士になったきっかけ、決め手、やりがい

○保育士を目指したきっかけは、現役保育士、潜在保育士、学生ともに、「子どもと触れ合うのが楽しい」がトップだが、現役保育士と学生では、「憧れの先生との出会い」や「小中学校の体験」が上位なのに対し、潜在保育士では、「自身の成長」や「親や知人の勧め」が上位に入っている。

⇒幼少期や子どもの頃の実体験が職業選択に重要な要素となっている。

問 保育士を目指したきっかけ(複数回答)

答 [現役]①子どもと触れ合うのが楽しい(58.6%)、②憧れの先生との出会い(24%)、③小中高の体験(15.6%)

[潜在]①子どもと触れ合うのが楽しい(59.9%)、②自身の成長につながる(18.1%)、③親や知人の勧め(17.1%)

[学生]①子どもと触れ合うのが楽しい(71.8%)、②小中高生の体験(36.7%)、③憧れの先生との出会い(32.2%)

### 【その他意見】

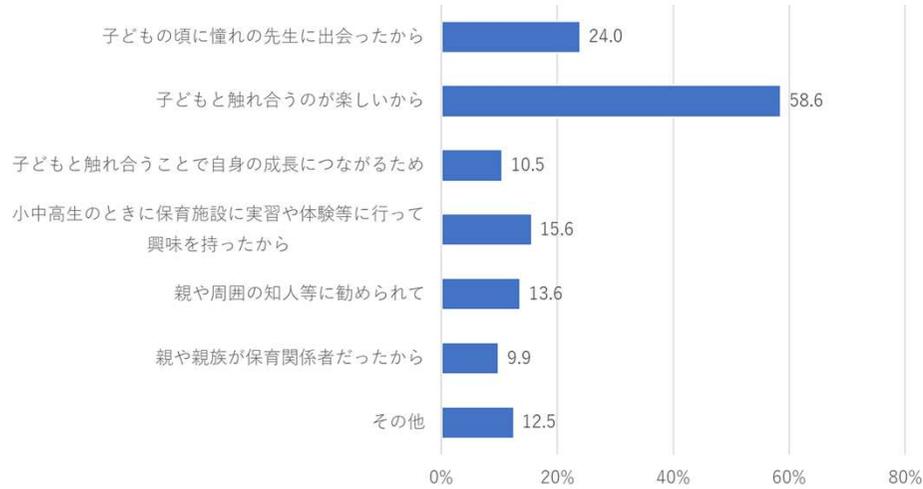
- 自分が子育て支援センターで保育士さんにお世話になり、助かったから。
- 子どもが生まれて園と関わりを持つようになり、素敵な先生に出会えたから。
- ピアノが弾けるし、絵をかいたりするのも好きだったから。
- オープンキャンパスで興味を持った。など

# (1) 保育士になったきっかけ、決め手、やりがい

## < 現役保育士 >

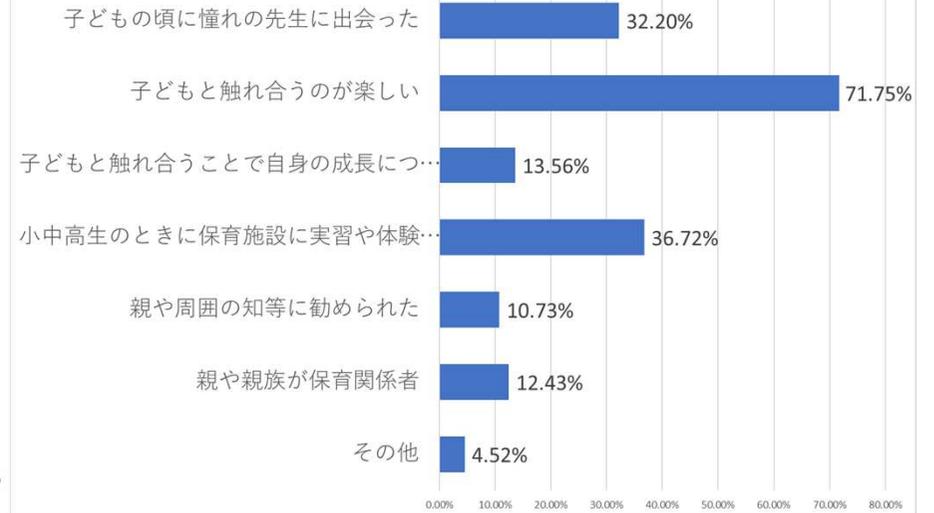
問9 保育士を目指すきっかけ

複数回答可



## < 学生 >

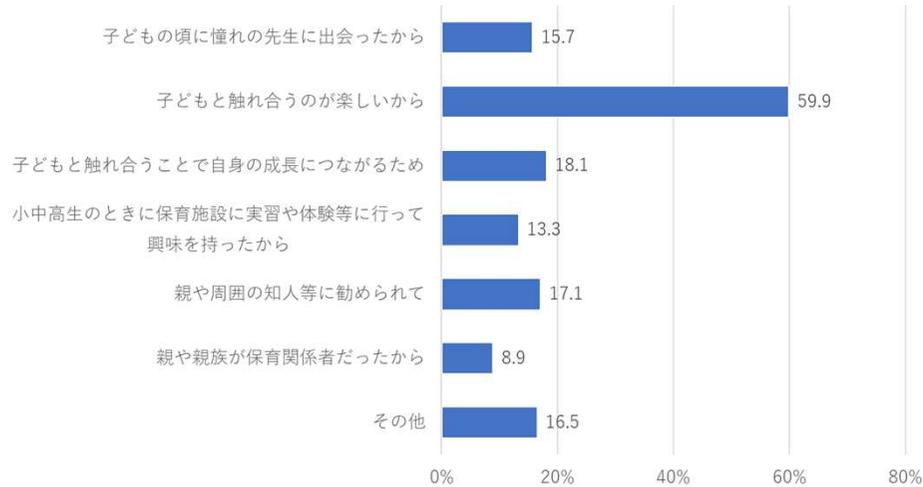
問3 保育士を目指すことになったきっかけ



## < 潜在保育士 >

問8 保育士を目指したきっかけ

複数回答可



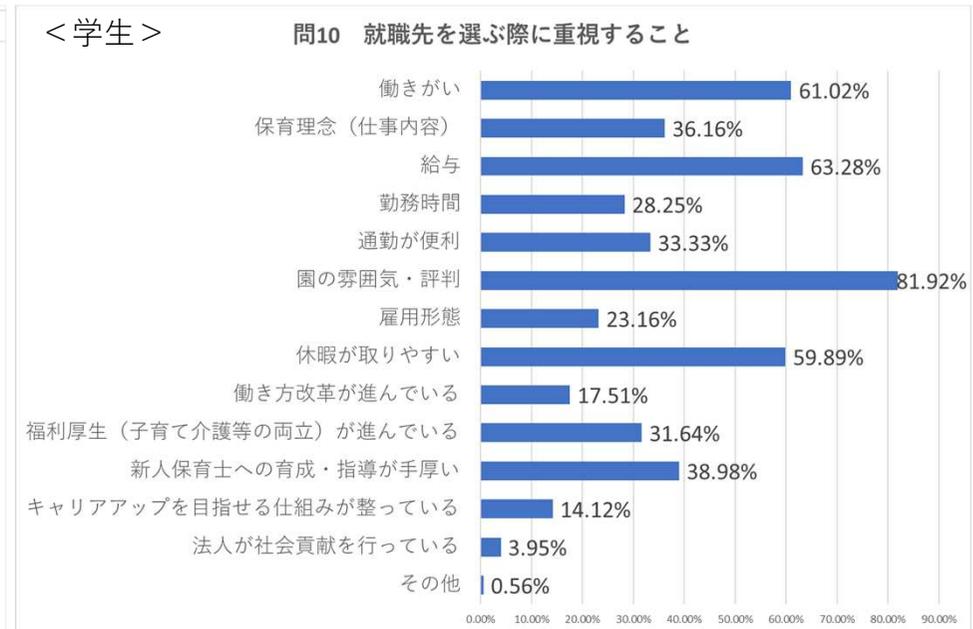
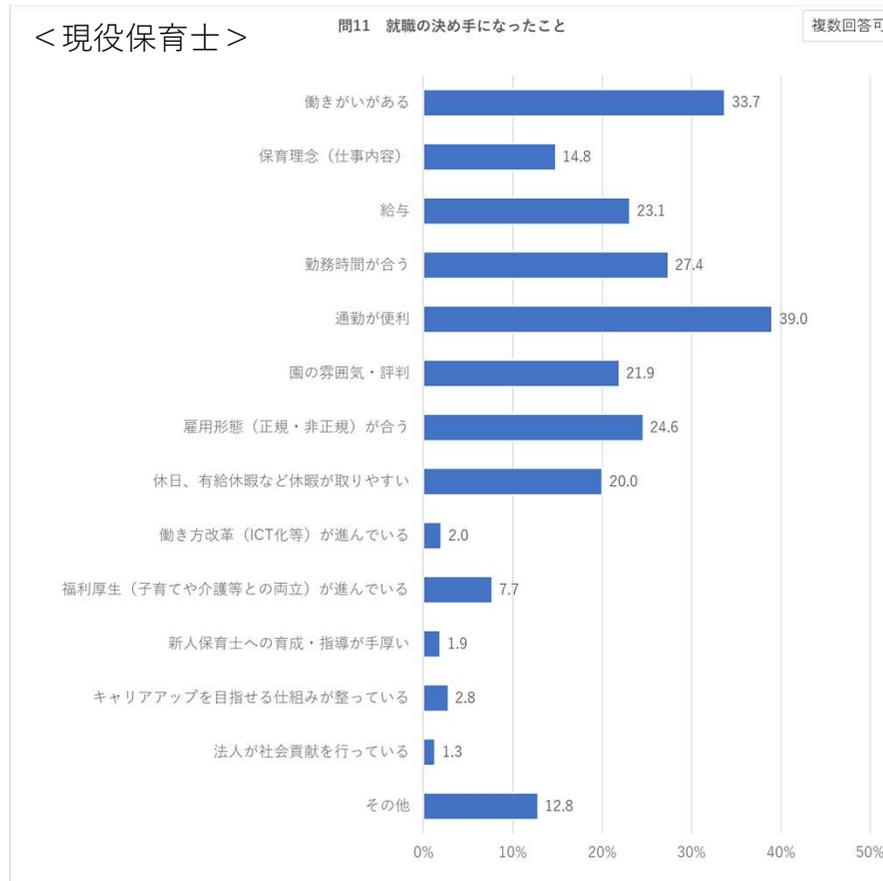
## (2) 就職の決め手や就職先選びで重視すること

○就職の決め手や就職先選びで重視することは、現役保育士、学生ともに「働きがい」が上位に入るものの、現役保育士では、「通勤の利便性」や「勤務時間が合うこと」、学生では、「園の雰囲気・評判」と「給与」が、それぞれ上位に入っていた。

問 就職の決め手になったこと、又は就職先選びで重視すること(いずれも複数回答)

答 [現役] ①通勤が便利(39%)、②働きがい(33.7%)、③勤務時間が合う(27.4%)

[学生] ①園の雰囲気・評判(81.9%)、②給与(63.3%)、③働きがい(61%)



### (3) 保育士になってよかったこと

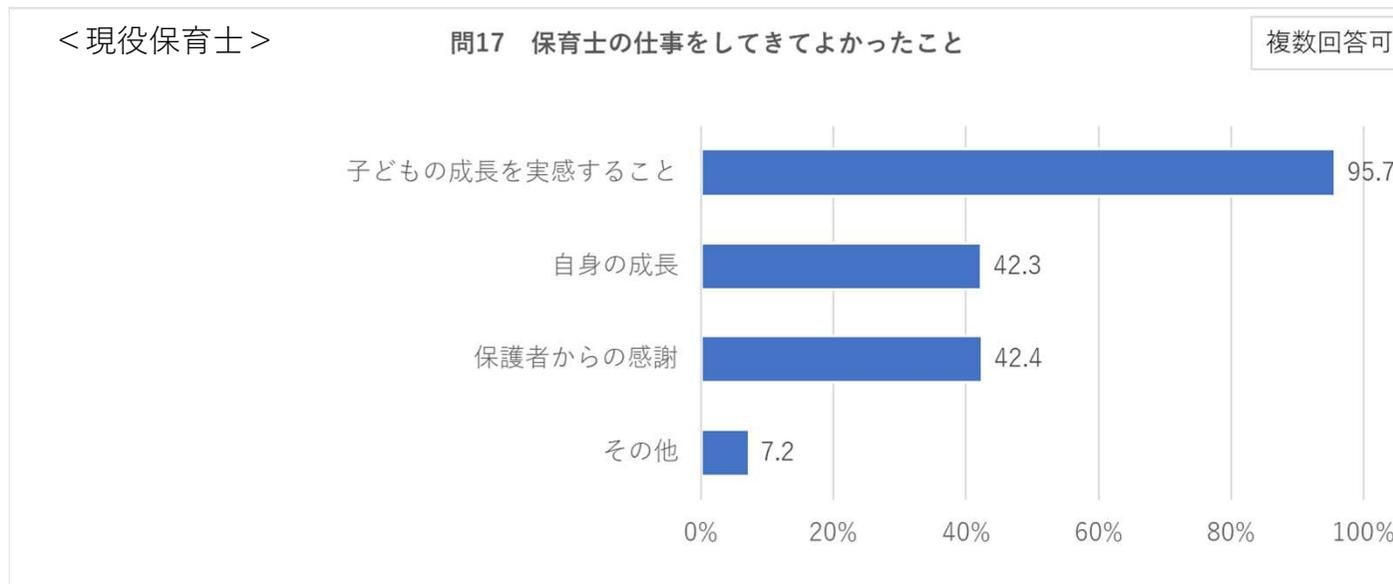
○現役保育士が保育士になってよかったことは、「子どもの成長を実感できること」がトップで、次に、「保護者からの感謝」、「自身の成長につながる」と続いている。  
⇒子どもの成長や保護者からの感謝が、保育士のモチベーションアップにつながっている。

問 保育士になってよかったこと(複数回答)

答 ①子どもの成長実感(95.7%)、②保護者からの感謝(42.4%)、③自身の成長(42.3%)

#### 【その他意見】

- 子どもとのやりとりや関わりの中で感動することが多い。
- 毎日笑いが絶えない、幸せな時間を過ごせること。
- 卒園した子どもが施設に顔を出しに来てくれる。
- 保護者や職員と、子どものためにより良いことを模索して連携する楽しさが味わえる。など



#### (4) 保育士としての就職希望、保育士を希望しない理由

○保育士としての就職を希望する学生は、約81%となり、進路に迷っている学生も多い。  
 保育士を希望しない理由としては、「責任の重さへの不安」がトップとなっている。  
 ⇒近年、保育事故や不適切保育がニュースで多く取り上げられている影響と考えられる。

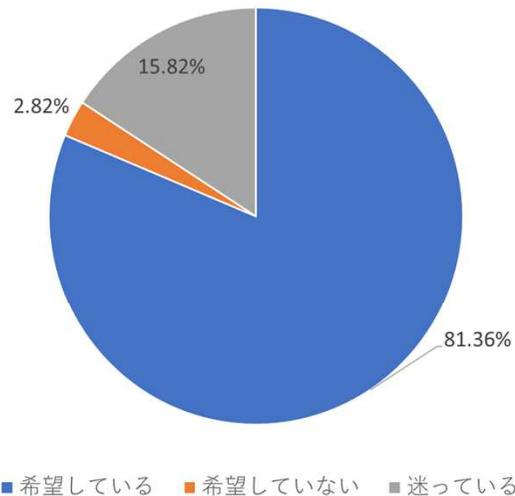
問 保育士としての就職希望

答 ①希望する(81.4%)、②迷っている(15.8%)、③希望しない(2.8%)

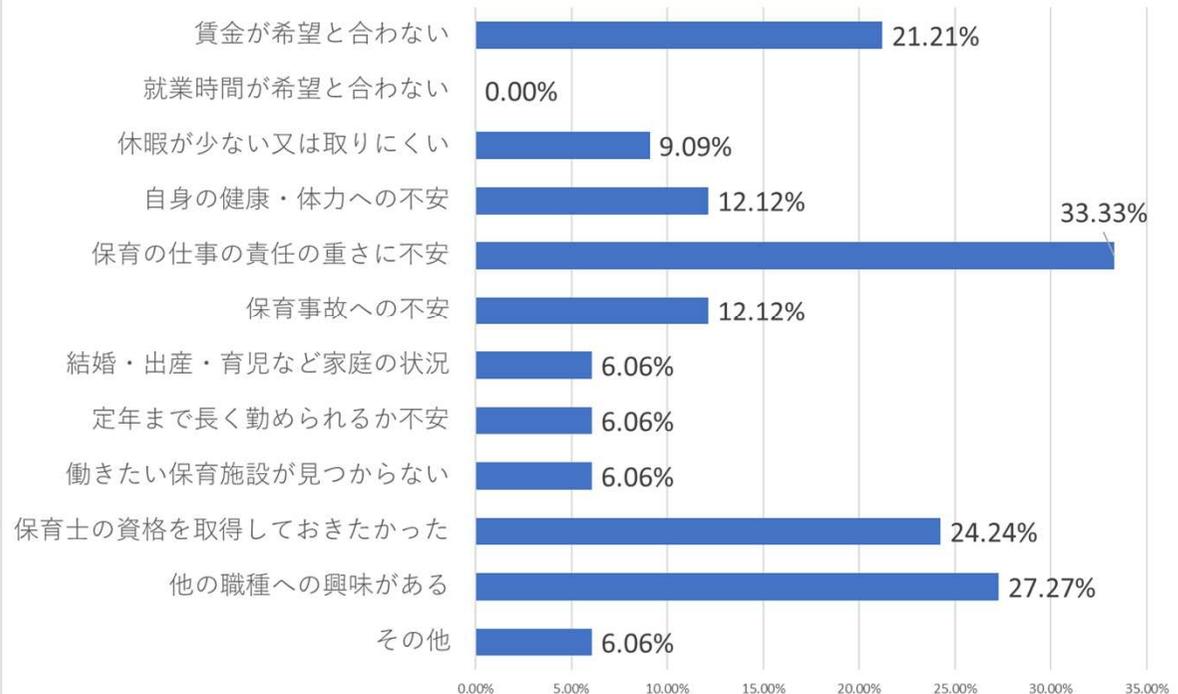
問 保育士を希望しない(又は迷っている)理由

答 ①責任の重さへの不安(33.3%)、②他の職種に興味(27.3%)、③資格取得したかった(24.2%)

問8 保育士としての就職希望



問11 問8②③>保育士を希望しない理由

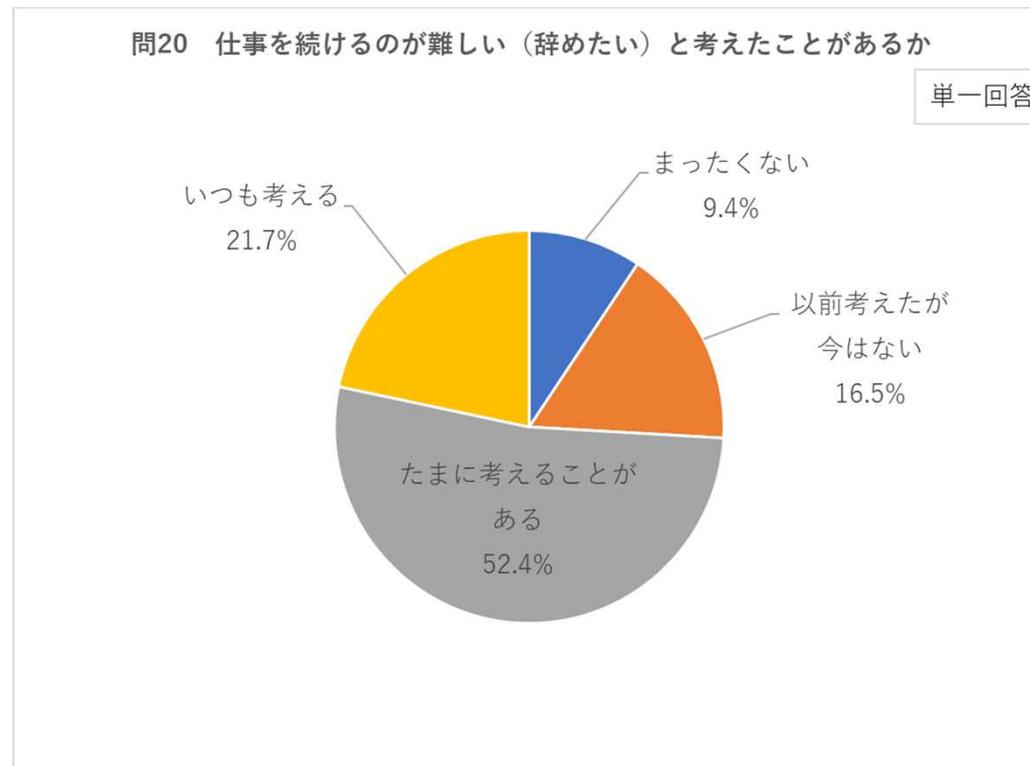


## (5) 保育士の離職経験と離職理由

○現役保育士の約9割が、これまでに1度は仕事を辞めたいと考えたことがあると回答した。

問 仕事を辞めたいと考えたこと(単一回答)

答 ①たまに考える(52.4%)、②いつも考える(21.7%)、③以前考えた(16.5%)



## (6) 現役保育士の離職経験、離職理由

○現役保育士の約43%が離職を経験しており、離職理由は、「職場の人間関係」がトップで、次に、「出産・育児」が続いた。保育施設が把握している離職理由にも、「健康・体力への不安」のほか、「職場の人間関係」が上位に入った。

⇒離職につながる直接の原因は人間関係が主なものと考えられる。

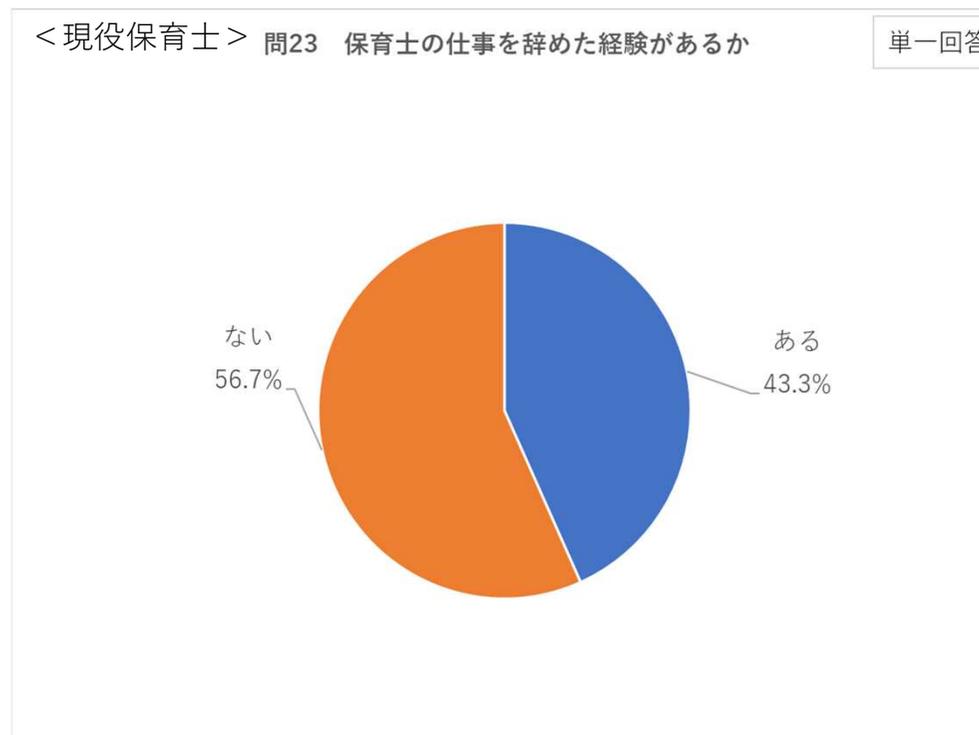
問 離職経験があるか(単一回答)

答 [現役] ①離職経験なし(56.7%)、②離職経験あり(43.3%)

問 離職理由(複数回答)

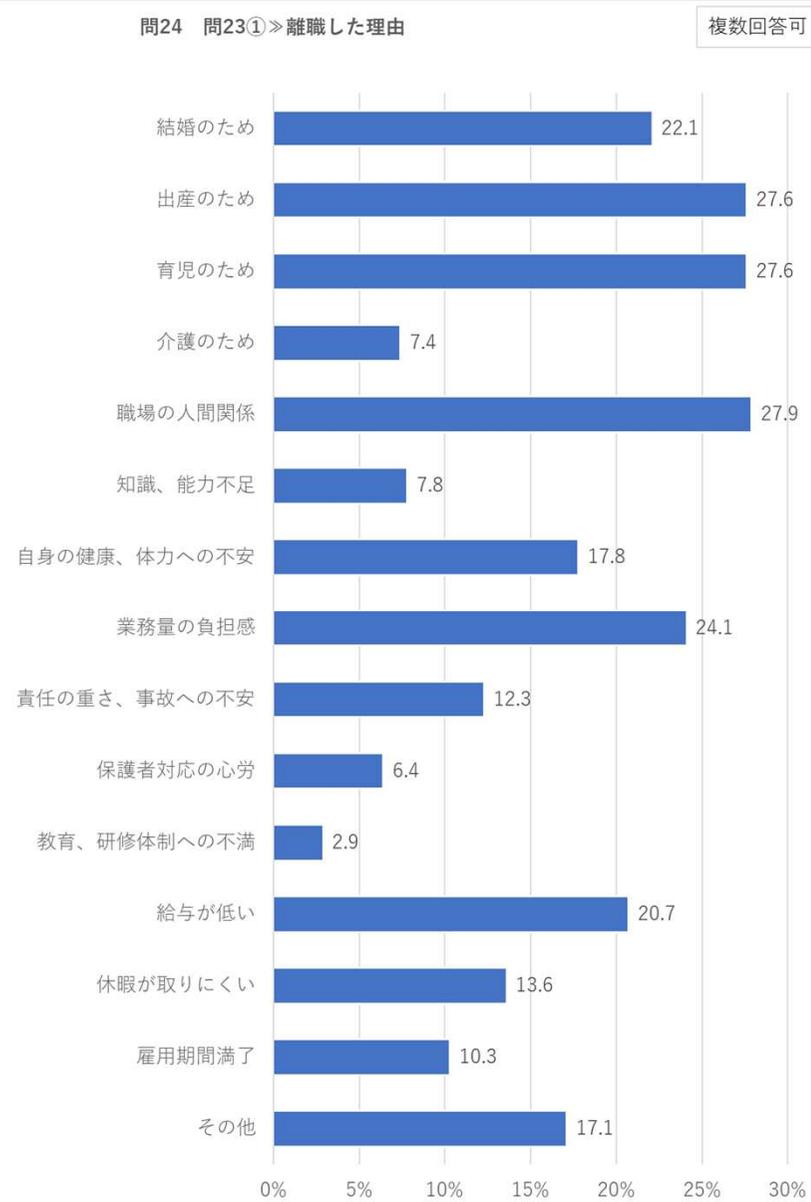
答 [現役] ①職場の人間関係(27.9%)、②出産・育児(27.6%、同率二位)、④業務の負担感(24.1%)

[施設] ①その他(転職・配偶者の転勤等)(44.8%)、②自身の健康・体力への不安(35%)、③職場の人間関係(30.8%)

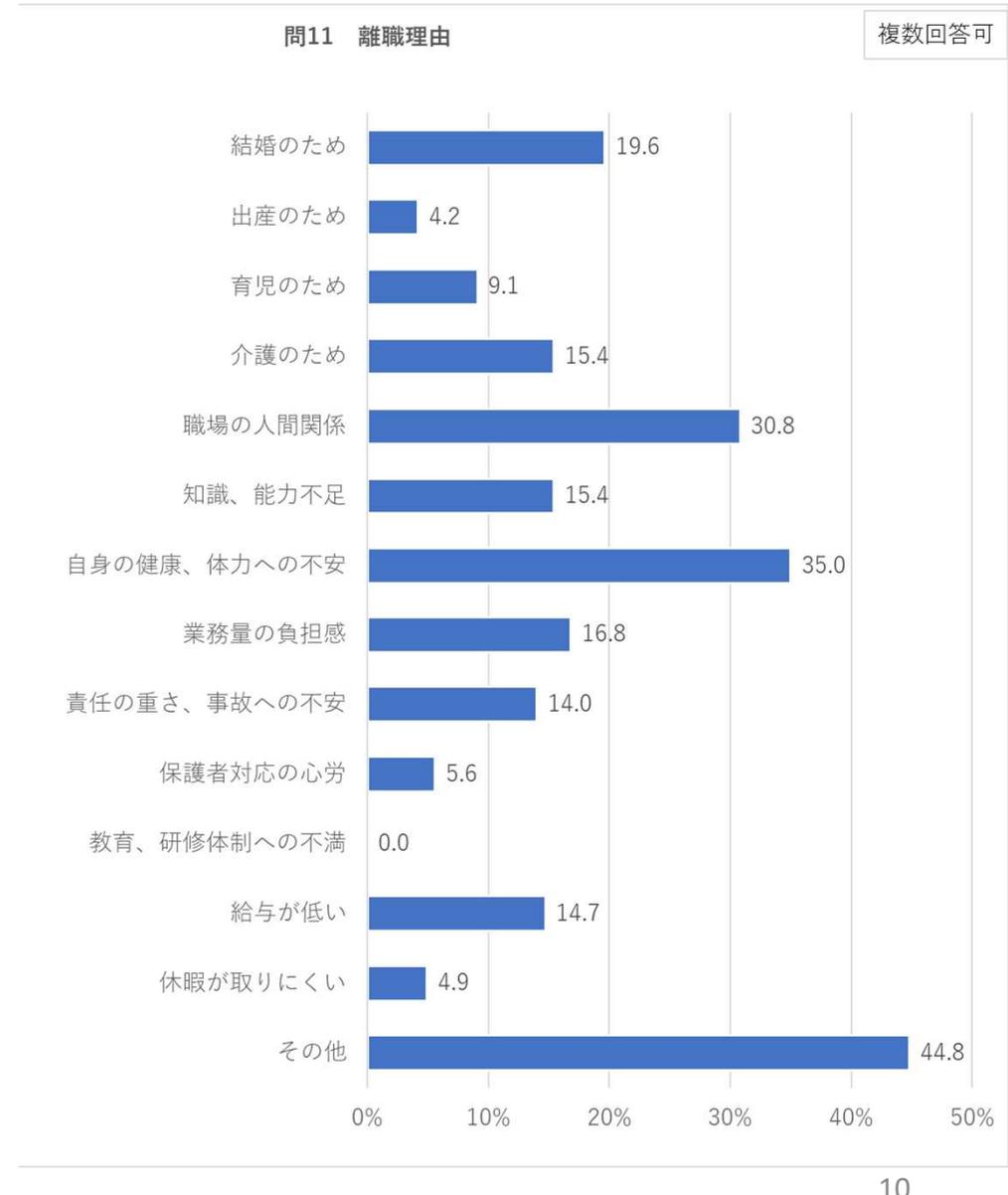


## (6) 現役保育士の離職経験、離職理由

### < 現役保育士 >



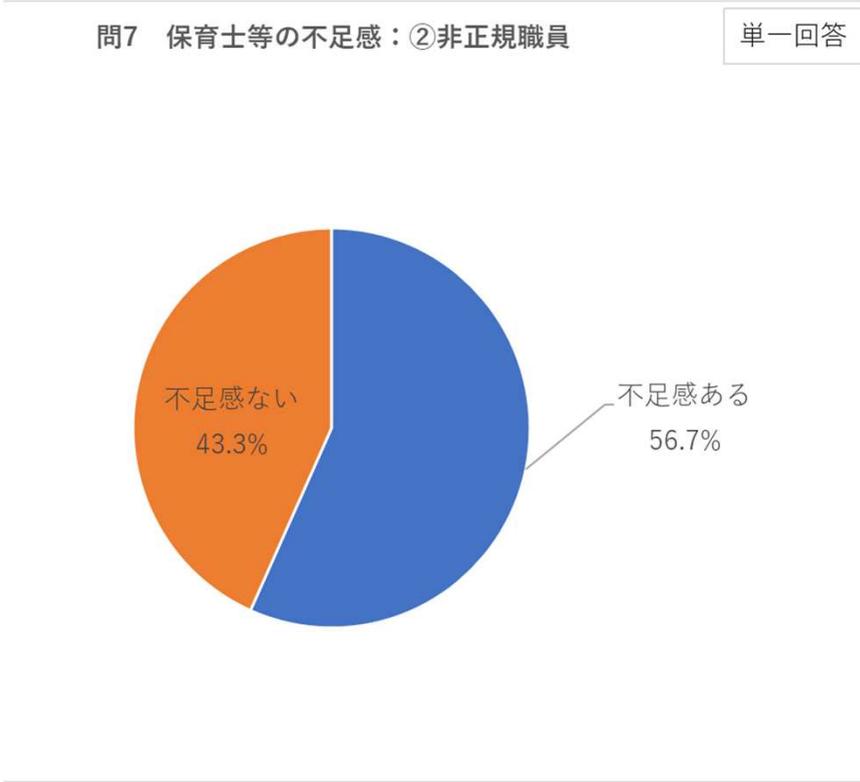
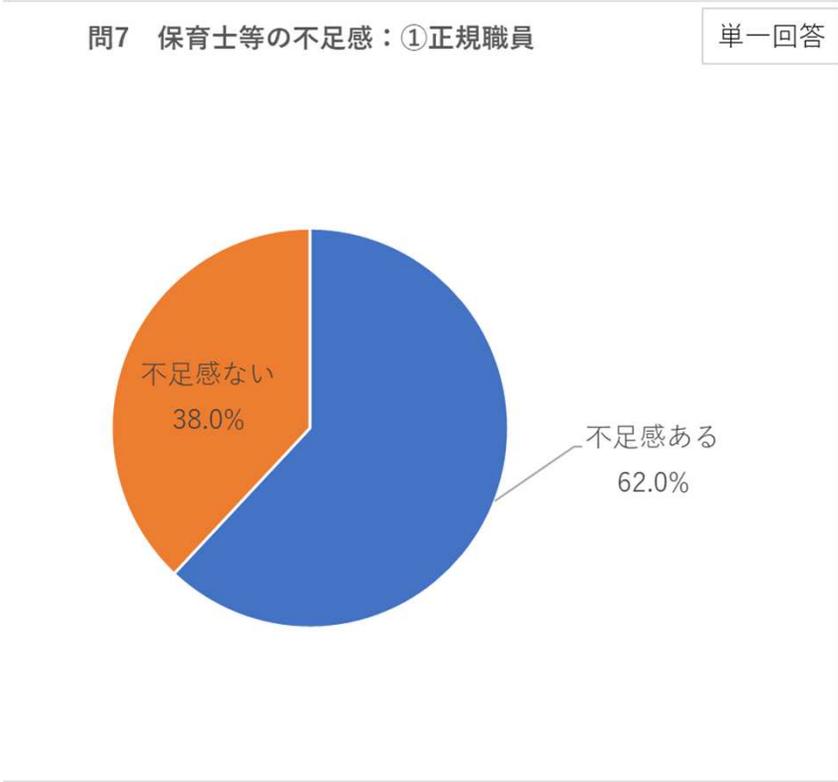
### < 保育施設 >



(7) 保育士の不足感

○保育士の「不足感あり」と回答した施設は、正規職員で62%、非正規職員で約57%となった。

問 保育士等の不足感  
答 正規職員62%、非正規職員56.7%（「不足感あり」と回答した割合）



## (8) 保育士の確保・定着に必要なこと

○保育士の確保・定着に必要なことは、現役保育士、潜在保育士、学生、施設ともに「給与改善」がトップで、学生以外では、「業務負担の見直し」、「保育士の配置基準の見直し」が続く。一方、学生は、「人間関係の円滑化」と「休暇が取得しやすい環境整備」が上位に入っている。

⇒給与と業務負担のバランスがとれていないことが問題と考えられる。若者は「人間関係の円滑化」や「休暇取得」を重視する傾向にある。

問 保育士確保・定着に必要なこと(複数回答)

答 [現役]①給与改善(88.5%)、②業務負担見直し(74.1%)、③配置基準見直し(74%)

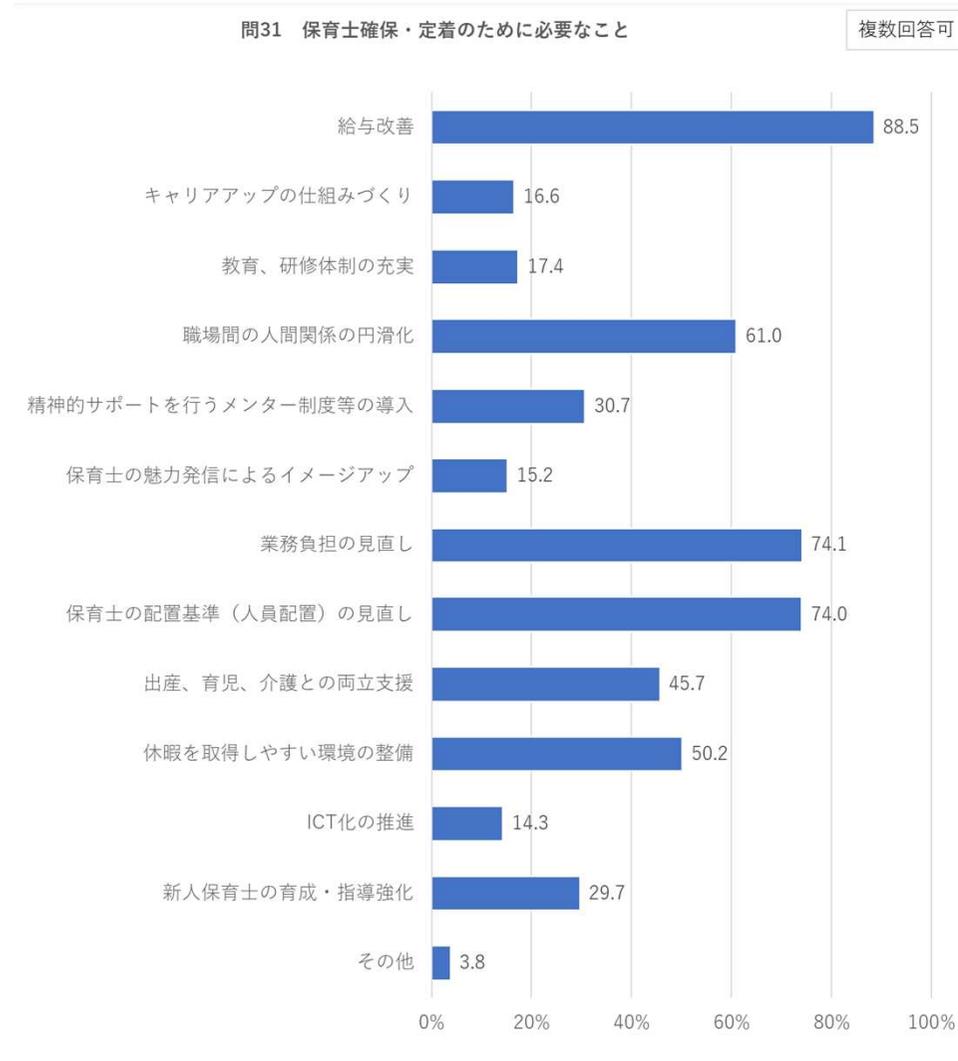
[潜在]① // (81.8%)、② // (74.8%)、③ // (61.5%)

[施設]① // (83.3%)、② // (70.2%)、③ // (67.9%)

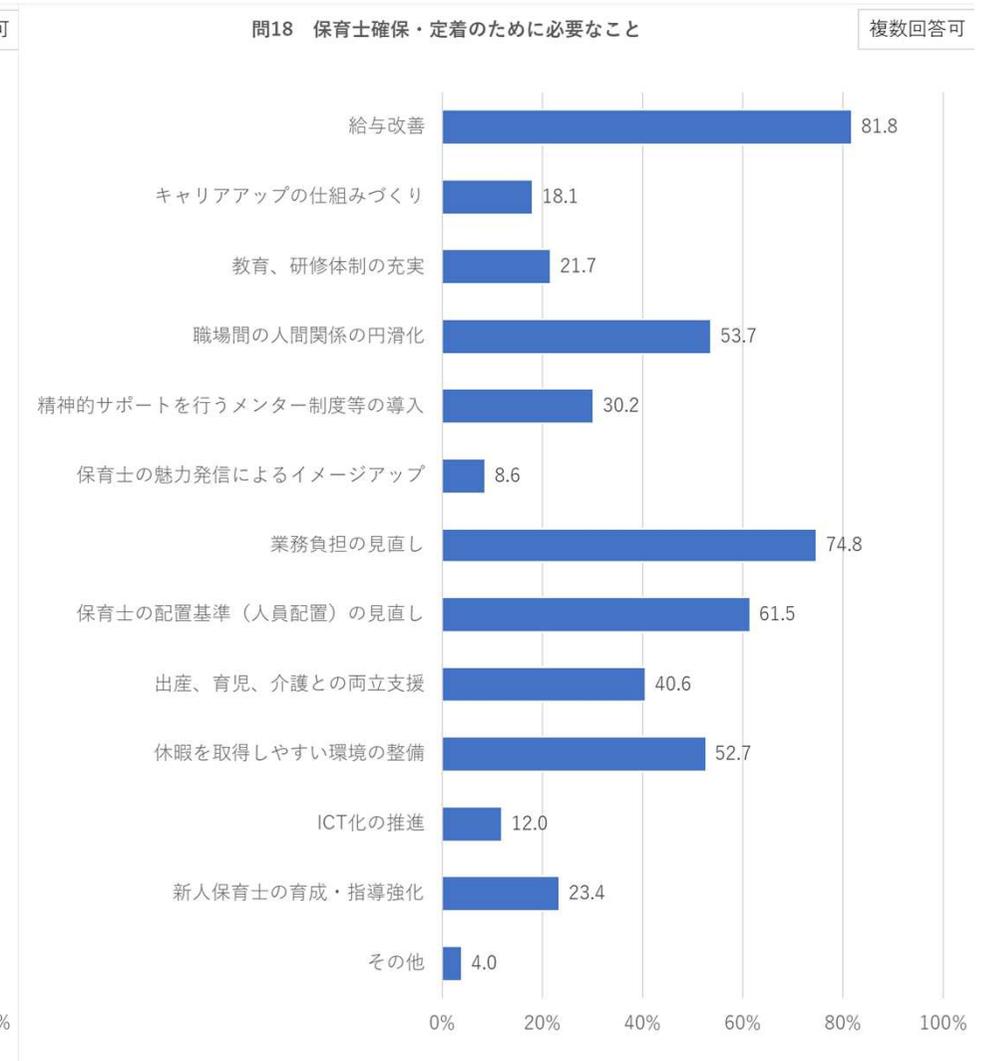
[学生]① // (76.3%)、②人間関係の円滑化(54.2%)、③休暇取得環境の整備(50.9%)

## (8) 保育士の確保・定着に必要なこと

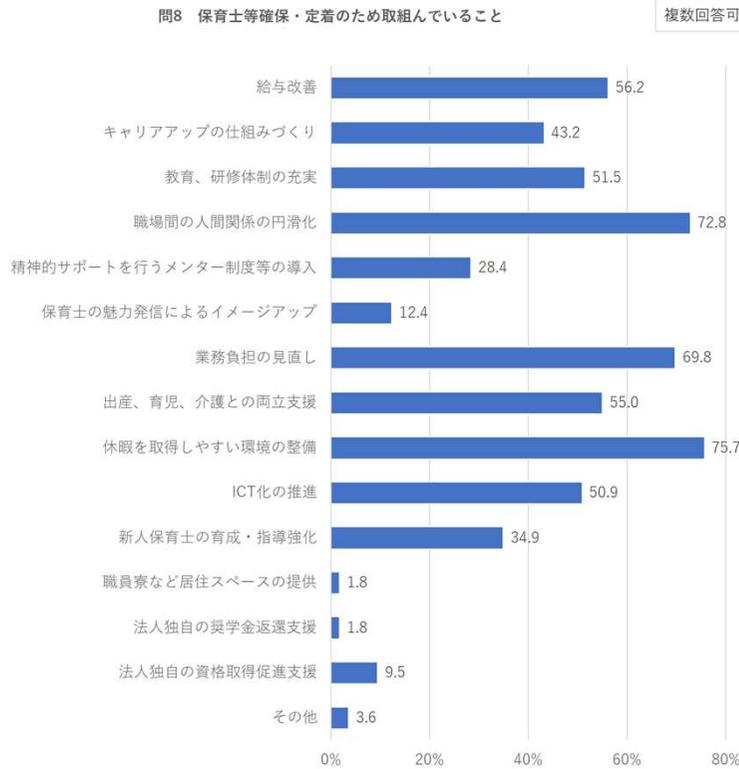
### < 現役保育士 >



### < 潜在保育士 >

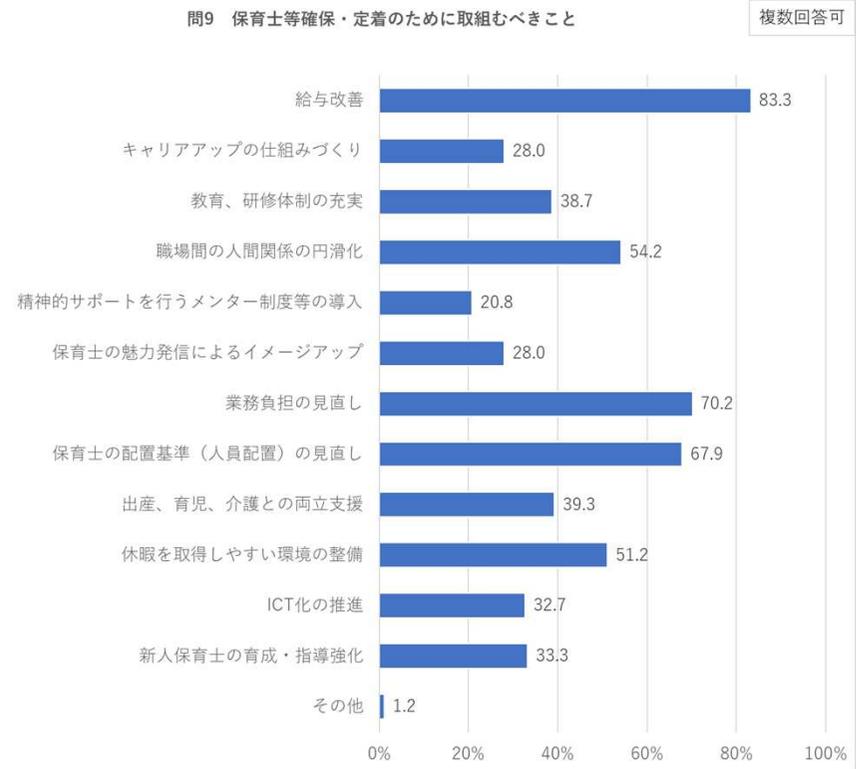


< 保育施設 >

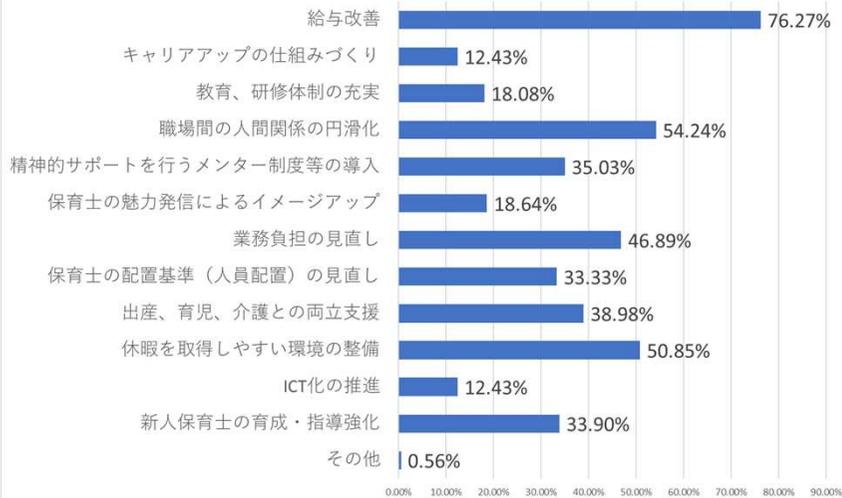


(8) 保育士の確保・定着に必要なこと

< 保育施設 >



< 学生 > 問12 保育士等確保・定着のために取り組むべきこと



●その他自由意見(現役保育士)

(9) その他自由意見

性別	年齢	経験年数	意見
女性	30歳代	10~19年	新人保育士の給与は上がっているが、現役保育士に回ってきていない。
女性	40歳代	20~29年	こども誰でも通園制度を国が検討しているが、それに伴う保育者の負担が心配。
女性	60歳代	20~29年	仕事が多すぎる。研修どころではない。保育以外を担当する専任職員がほしい。
女性	50歳代	20~29年	園児と関わる時間が増えると自分の子との時間が少なくなってしまう。
女性	50歳代	5~9年	ニュースなどで保育士のイメージがダウンしているので、イメージアップをしてほしい。
女性	30歳代	10~19年	保護者やボイスレコーダーに怯えながら保育するのは苦痛です。私たちを守ってくれるのは誰ですか。
女性	20歳代	5~9年	現役保育士が保育の考え方をアップデートすべき。新人だけではなく、ベテランの保育士こそ、研修や学び直しの機会が必要だと思う。
女性	50歳代	10~19年	給料と社会的な地位が低すぎる。
女性	30歳代	5~9年	熱意や知識のある新人保育士が就職しても、昔からの園の文化や雰囲気はアップデートされていないので、その熱意や知識が活かされていない。
女性	30歳代	10~19年	勤務中はずっと保育を行っているため、その他の業務は休憩を削るか、時間外になってしまう。
女性	30歳代	10~19年	給料を増やすより、仕事量を減らしたり、保護者との間に入ってってくれる人がほしい。
女性	50歳代	20~29年	今の保護者支援が子育て能力低下に拍車をかけている。親の心に寄り添うのではなく、もっと子どもの心に寄り添うべき。
女性	40歳代	10~19年	不適切保育などの悪いニュースばかりが取り沙汰される。それに加え、古い配置基準、低賃金、多くの書類雑用、見せるための行事など、現場の負担感が増すばかりです。
女性	20歳代	5~9年	現場は本当にいつも忙しい。にこにこ健やかに育っていくべき子どもたちの保育をする人が、つらくて毎日涙を流すようなことではダメだと思う。
女性	30歳代	10~19年	非正規の保育士が多く、それで現場が回っているのに、ボーナスゼロは納得いかない。日誌、児童票、副担などかなりの仕事をしている。
女性	50歳代	20~29年	勤務時間内に帳簿や月案作成などの事務作業ができないため、サービス残業をしている。
女性	50歳代	20~29年	就職1年目は保育士1人分としての働きは難しい。新人保育士は半年くらいは研修期間として現場で学ぶほうがいい。

## ●その他自由意見(潜在保育士)

性別	年齢	経験年数	意見
女性	40歳代	10～19年	必要とされる書類や雑務が多い。行事の準備や壁面飾りなどもあり、保育にもっと専念できる環境になれば、復職する人も多いと思う。
女性	30歳代	1～4年	全国的に保育士の給与改善を試みているようだが、現場の保育士のほとんどは、給与面での変化を感じていない。
女性	40歳代	20～29年	やりがいと子ども好きだけでは保育士を続けることが難しい現状を、多くの人に知り、応援してくれる世の中でなければ、誰も保育士になりたくない。
女性	30歳代	5～9年	現在はボイスレコーダーやSNSの影響で保育がしづらく、子どもを成長させるより、親を怒らせないように気を遣うばかり。
女性	60歳代	5～9年	新人保育士が就職しても、指導者がおらず、他の職員の見よう見まねで仕事をせざるを得ない。
女性	30歳代	0年	実際に自分の子が保育園に通うことで、あらためて大変な仕事だと感じた。給与や業務負担の見直しのほか、休暇を取りやすい職場でないと、家庭や育児との両立は難しい。
女性	30歳代	0年	女性保育士のみの職場の雰囲気が悪い。男性保育士がいる職場に実習に行ったが、全然違った。
男性	30歳代	10～19年	保育士を守ってくれる事業所がない。
女性	20歳代	5～9年	サービス残業が月40時間を超える。休憩は1日20分も取れない日があり、外出もできない。

## ●その他自由意見(保育施設)

公私	施設区分	意見
公立	保育所	不適切保育のことをよく言われるが、今の配置基準では子どもを保育できない。
公立	保育所	仕事量の多さ、責任の重さ等の理由で、正規職員を希望する非正規職員が少なくなった。
公立	保育所	責任の重さを感じる職員がメンタルをやられてしまうことが多い。
私立	認定こども園	保育時間が長く、ノンコンタクトタイムがない。毎年求められることは増えるが減らない。
私立	保育所	保育士定数に新人もカウントされるが、もっと余裕を持たないと、本人も周りの職員もつらい思いをする。1年目はまずは職場に慣れる体制が必要。
私立	幼稚園	保育士等の精神的負担を軽くするため、クレーム対応(相談ではなく対応)する外部機関を作ってほしい。保育士のネガティブなイメージを社会に広めないように対策してほしい。
私立	小規模保育事業所	今の配置基準では保育士の負担が大きい。給与の改善も必要だが、精神面での負担を減らすことが大切だと思う。夢を持つ学生が諦めることのないような改革をしてほしい。

その他、調査結果の詳細は県ホームページをご覧ください >>>

